

mail : kap@kurashi-ki-ninaru.jp



令和 4～6 年度 国土交通省「官民連携まちなか再生推進事業（エリアプラットフォームの構築・未来ビジョン等の新規策定）」の補助を受けて制作されました。

令和 4～6 年度 国土交通省「官民連携まちなか再生推進事業（エリアプラットフォームの構築・未来ビジョン等の新規策定）」の補助を受けて制作されました。

くらしきになるエリアプラットフォーム



目次

目次 1

はじめに 2

1. ビジョンの概要

策定の目的 4

策定の経緯 5

くらしきになるエリアプラットフォームについて 6

対象エリア 8

ビジョンの位置づけ 9

2. 調査と分析

エリアのいま 10

エリアのこれまで 12

3. ビジョン（理念と方針）

ビジョンの理念・将来像 14

くらしきになるボタン 15

ユースの思い 17

ビジョン策定のプロセス 18

テーマごとの方針 20

エリアの将来像（全体イメージ） 22

4. ビジョン（アクションと進め方）

プロジェクトマップ 24

境界の考え方 26

A 阿知3丁目境界 27

B えびす町・宮坂町（えびす商店街）境界 28

C 東町境界 30

D 美術館・図書館・自然史博物館エリア 31

ロードマップ 32

推進体制 32

これからに向けて 33

～倉敷市中心市街地の未来ビジョンとこれから～

今回の倉敷市中心市街地の未来ビジョン策定にあたって、歴史的建造物群の保存地区（通称美観地区）に加えて倉敷川畔を中心に東西南北に延びた街道沿いに町家が多く残る地域を含めて、ビジョンの対象エリアに選定しました。

倉敷川畔は水運物流の拠点として倉庫群と大型町屋が建築されますが、四方に延びる街道沿いには多様な種類の町家が大小、職種に関わらず連担して建てられています。その町並みは多様な階層が混ざり合って、町衆を形成し地域コミュニティを形作っていました。この歴史的空間はヒューマンスケールの空間で暮らしを中心にした仕組みがあり、町衆の生活共同体意識と地域への貢献、進取気鋭の志、住民たちの日常の丁寧な暮らしと文化、そして美しい町への意識が育てて来た歴史と価値が積み重なり、連続した歴史的都市環境が色濃く残っています。



中橋からの眺望

未来が見える倉敷の景観

―――ある冬の日、大原本邸の玄関から通り土間を抜けた蔵に通じる路地は雨が降っていた。決して広くない路地だが、雨が埃を落とし、濡れた石畳と寒の雨が降る路地は澄んだ空気がいつもと変わらない。路地は200年佇まいが変わらず、日々手入れされ、昔と変わることなく今日の雨を迎えている。この路地をかつて歩いた屋敷の住人と往来した人々と200年変わらない空間を共有している。この風景は、これから未来に向けても変わらぬ風景と風情を創り出すに違いない。此処は200年前からずっと未来を見せてくれている。倉敷の未来の風景なのだ。私たちは彼らが暮らした未来にいる、多くの先人たちの未来に暮らしているのだ。このような風景と環境が美観地区と周辺部には多く残っている。保存ではなくここは今と変わらず未来も美しく、新しい場所ではないかと先人たちは未来を思い描いていたかもしれない。―――



大原本邸の路地

We live in the future of theirs.

「私たちは彼らの未来で暮らしている」。

先人たちの未来は、過去の積み重ねであるまさに今ではないでしょうか。そのような視点で改めて、まちの歴史を知り、まちの価値を学び、共有する事から未来ビジョンづくりが始まります。未来は今暮らしている私たちの未来でもあります、ここで暮らしてきた先人たちの未来でもあります。そしてこれから生まれてくる人たちの未来でもあることを忘れずに。地域を知り、学び、価値を高め、仕組みを作り、活かし、そして鍛えるためにまちの未来ビジョンを作りました。

この未来ビジョンをもとに今後の倉敷市中心市街地の核となる都市環境及び都市景観として、広く倉敷市全体の都市基本計画の未来ビジョンの中核としての位置付けになることを願っています。

くらしきになるエリアプラットフォーム
代表 中村 泰典



大原本邸のなまこ壁

倉敷市では、1967(昭和42)年の倉敷・児島・玉島の3市合併を契機とした「倉敷市の将来像に関する懇談会」において、倉敷川畔の歴史的景観の保存と整備について報告されたこと等を背景に、1968(昭和43)年に「倉敷市伝統美観保存条例」が制定され、その後50年以上に亘り町並み保存に取り組んできました。条例による規制や補助制度による支援等が整えられた倉敷美観地区では、50年先も変わらぬ風景と風情が残る、言い換えれば、未来の姿が既に見えている状態にあります。

一方周辺地区では開発圧力が増し、市の景観計画の制限が及ばない限度を超える高層マンションが建設され、プレハブや駐車場が増々目立つようになり、ライフスタイルも大きく変化し全国どこにでもある都市環境に様変わりしています。残存している町家も解体が増え、景観は釣り合いが取れなくなり、重伝建地区との差異が増々顕著になり歴史的都市景観にモザイクが掛かる地域が増えています。



岡本直樹氏「倉敷鳥瞰図(1963)」

住民や事業者等が思い描くまちの将来像は、地域との関わりや関心分野、立ち位置などにより一様ではなく、具体的な都市像のビジョンが示されなければ、成り行きの景観が未来のまちへと繋がっていくことになります。

また、景観の保存は観光客の増加をもたらし経済活動の活性化を生み出した反面、日常生活にも様々な影響を与え、住民が暮らし難さを感じていることも否めません。地域の財産としての景観や個々の町家をまもり育て、そこでの暮らしを支えてきた地域住民が高齢化し、地域コミュニティの担い手としての居住者が減少していることにも目を向けていく必要があります。

そこで、「歴史的都市環境を継承しながら、この地域でどう暮らして(働いて)いきたいか」という想いを共有し、その実現に向けてそれぞれが当事者として行動できるように、未来ビジョンを策定することにしました。



【モザイクがかかるまちの姿】
岡本直樹氏「倉敷鳥瞰図(2005)」を基にNPO法人倉敷町家トラストが作成
白い部分はほぼ100%解体・更新されている。グレーは50%。

未来ビジョンは、エリアに関わる多くの人が共感できるものである必要があり、そのためには、様々な立場の関係者が抱く想いをビジョンに反映させることが重要です。そこで、国土交通省の「官民連携まちなか再生推進事業」を活用し、まずは多様な人材が集積するエリアプラットフォームの構築を目指すことにしました。

2021(令和3)年度から準備を進め、2022(令和4)年度に事業の採択が決定。それまで情報収集や意見交換をしてきた地域住民や土地所有者等が「倉敷美観地区及び周辺地域未来ビジョン検討委員会(以下「検討委員会」)」を立ち上げ、倉敷市の委託を受けてエリアプラットフォーム構築に向けた取組を開始しました。参加者が想いを語り合う場となる「くらし・き・になるミーティング」を定期的に開催するとともに、まち歩きや空き家の改修ワークショップ等を実施し、住民や事業者、金融機関、商店街、教育機関など様々な関係者を巻き込みながら、皆で地域の現状・課題を共有し、



【未来ビジョン策定までのタイムライン】

未来のあるべき姿や機能等の検討を深めていきました。

2023(令和5)年度には再び「官民連携まちなか再生推進事業」の採択を受け、検討委員会と倉敷市、「くらし・き・になるミーティング」参加者を構成員とする「くらしきになるエリアプラットフォーム」を設立。以降は、ミーティングや専門家による講演会など様々な場を通じて得られた参加者の想いを取り入れながら、未来ビジョンの策定を進めました。年度末には、それまでの検討結果をまとめた「くらしきになる未来ビジョン かわらばん」を発行し、ミーティングに普段参加していない人にもエリアプラットフォームの活動をお知らせしました。

2024(令和6)年度に3年目となる「官民連携まちなか再生推進事業」の採択を受けた後も未来ビジョン策定に向けた取組を継続し、約200名の想いが詰まった「くらし・き・になる未来ビジョン」が2025(令和7)年3月に完成しました。

2021 (R3)	官民連携まちなか再生推進事業の採択を目指し、関係者が情報収集、意見交換を進める
2022 (R4)	4月 官民連携まちなか再生推進事業内定 7月 検討委員会設立 8月 検討委員会が倉敷市の委託を受け、エリアプラットフォーム構築に向けた取組を開始
2023 (R5)	4月 官民連携まちなか再生推進事業内定(2年目) 引き続き検討委員会が倉敷市の委託を受け、エリアプラットフォーム構築と未来ビジョン策定に向けた取組を推進 6月 くらしきになるエリアプラットフォーム設立
2024 (R6)	3月 「くらしきになる未来ビジョン かわらばん」発行 4月 官民連携まちなか再生推進事業内定(3年目)
2025 (R7)	3月 くらし・き・になる未来ビジョン策定

くらしきになるエリアプラットフォームは、倉敷美観地区及び周辺地域の歴史的な町並みを将来に亘り継承していくことを目的に、2023（令和5）年6月に設立した官民連携組織で、役員（代表・副代表・委員等）と会員によって構成されています。所属や年代などの属性にとらわれず、気軽に参画できる団体を目指しているため、エリアに関心のある方は誰でも会員になることができます。

くらしきになるエリアプラットフォームでは、目的を達成するため、未来ビジョンの策定やビジョン実現に向けた取組を推進しており、主に次のような活動を行っています。

①全体会議

エリアプラットフォーム全体の方針に関する承認を行う会議の場であり、参加者が想いを語り合う場です。自由に参加できるオープンな会議で、ほぼ毎回新たな参加者が訪れる、エリアプラットフォームの入口となる場です。

②チームミーティング

テーマ（暮らす・商う・学ぶ・楽しむ・磨く・創る）ごとの声や言葉を集める場で、6つのチームに分かれて議論を進めます。多様な人材が集ま

るエリアプラットフォームでは、立場によって関心のある分野が異なるため、同じテーマに関心を持つ会員同士が集まることで、より深い議論が可能になります。

③講演会・勉強会

国内外で活躍するまちづくりの専門家を招き、他都市の事例やまちづくりのポイント等を学ぶインプットの間です。全体会議と併せて開催することもあり、その場合は講師を交えたディスカッションを行います。

④運営会議

未来ビジョン実現に必要なアクションの推進に向けた検討を行う場です。エリアプラットフォームの運営は、事務局内で毎週開催する打合せの中で方針を決定していますが、毎月最終週は運営会議として開放し、会員も運営に関わる場としています。

⑤ユースセッション

参加資格を30歳未満の若者に限定する議論・交流の場です。未来ビジョンは40年以上先の将来像を描くため、「未来のまち」を担う「今の若者」が共感できるものでなければなりません。若者限

定の際は彼等の自由な発言を促し、主体的にエリアに関わるきっかけとなっています。企画はユース会員が立案し、事務局は最低限のサポートを行います。

⑥その他

まち歩きや町家改修ワークショップなど、エリアの現状・課題の認識、愛着・誇りの醸成等に繋

がる活動を随時行っています。

これらの活動には、住民や事業者、商店街組織、金融機関、教育機関、学生、行政など多様な人材が参加し、これまでに約200名の方が何らかの活動に関わってきました。これからも、新たな人材を巻き込みながら、活動を継続していきます。



①全体会議

56畳の和室を持つ新溪園、国指定重要文化財・井上家住宅など、エリア内の様々な場所に会員が集い、議論する



②チームミーティング

チーム単位に分かれ、模造紙や付箋等を使ったグループワークを通じて議論を深める



③講演会

専門家の講演と参加者との質疑応答を行う。他の活動に比べて市外・県外の参加者が多く見られる



③勉強会

専門家の講演をオンラインで配信する。過去に開催した講演会の動画を配信することも



④運営会議

事務局と会員が共にエリアプラットフォームの運営を考える。会員の意見をきっかけに講演会が決まるなど、他の活動にも影響

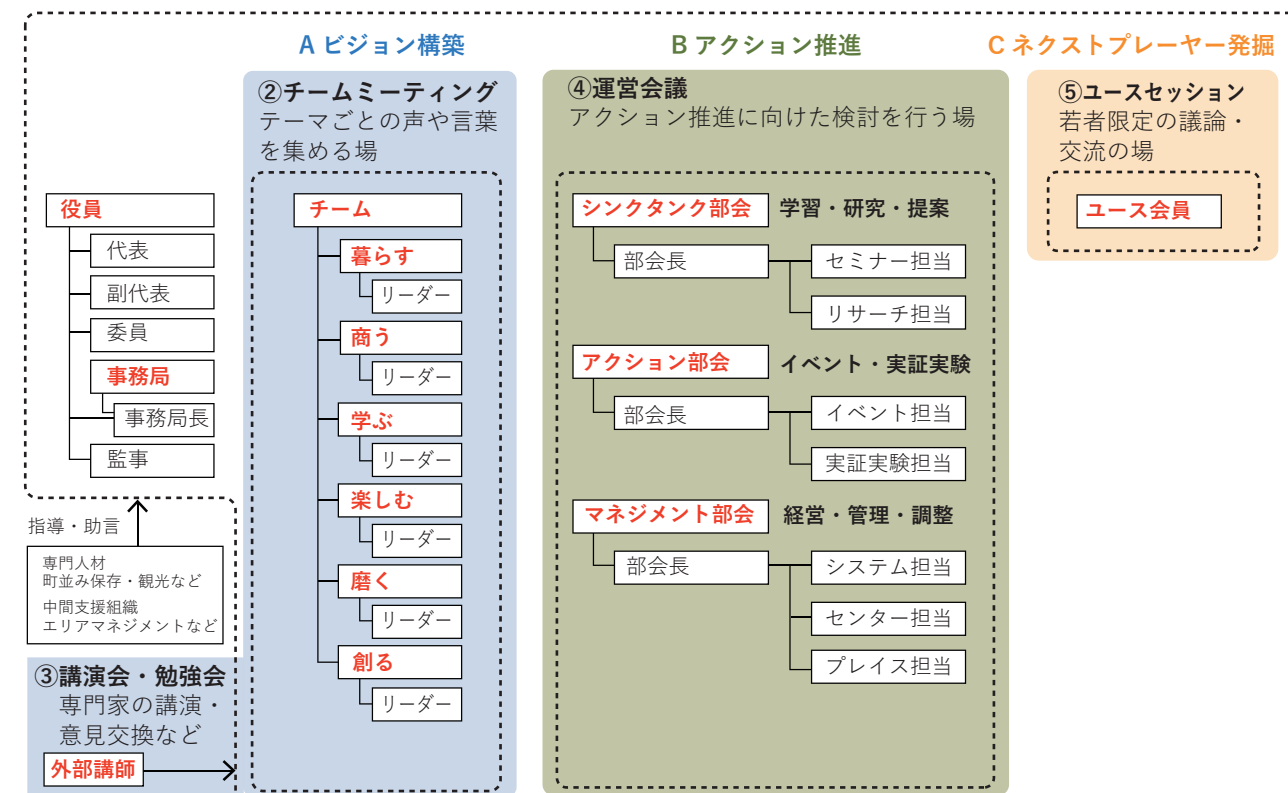


⑤ユースセッション

大学生や若手社会人など30歳未満の若者がミーティングやワークショップを重ねながら、居場所づくりや未来ビジョンの検討を進める

①全体会議

全体の方針の承認、オープンな会議の場



【くらしきになるエリアプラットフォームの体制】



⑥その他（まち歩き）

「防災」「空き家」など異なるテーマを毎回設定し、様々な視点でエリアの現状・課題を確かめながらまちを歩く



⑥その他（町家改修ワークショップ）

左官や大工などの職人に教わりながら、町家を自分たちの手で少しずつ改修する

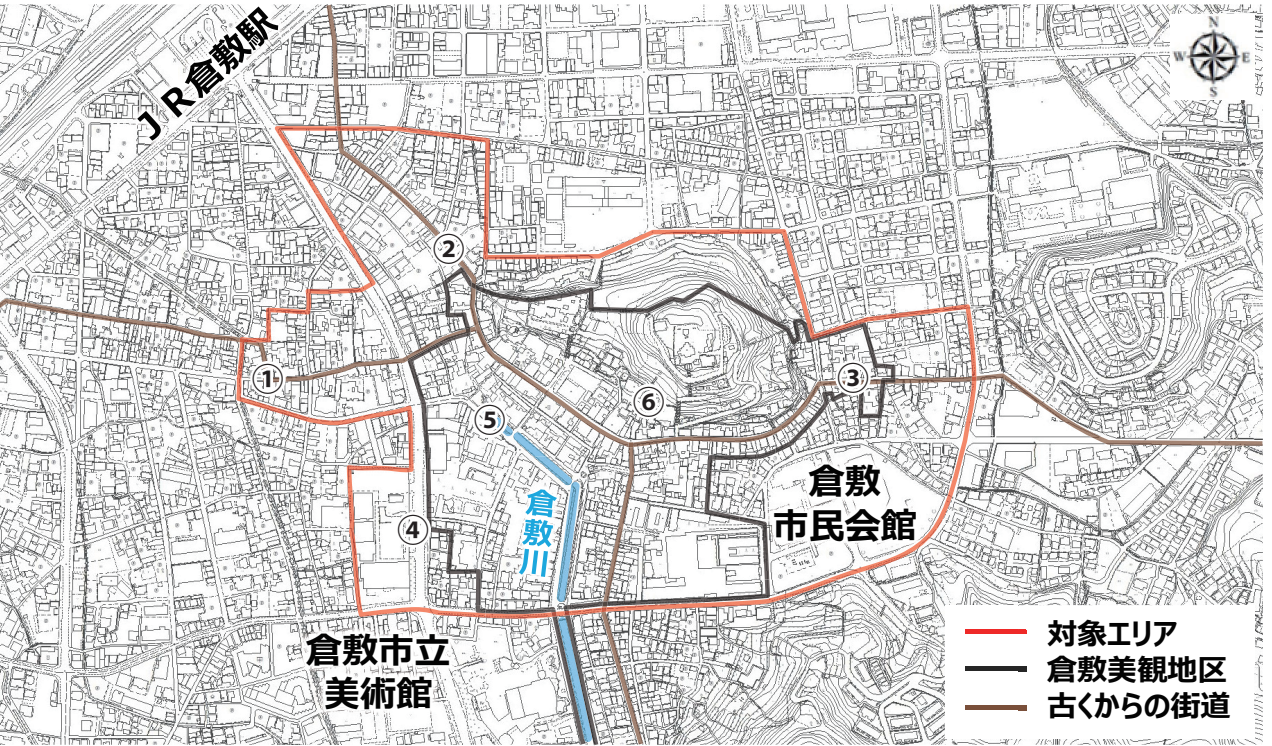


⑥その他（他団体との交流）

国内外の他団体（政府、大学など）と情報共有や意見交換を行い、外からの視点を取り入れながらエリアのことを考える

未来ビジョンの対象エリアは、下の図に示す約43.5haの範囲とします。歴史的建造物群の保存地区（倉敷美観地区）に加えて、倉敷川畔を中心に東西南北に広がる街道に沿う形をしています。東町から早島、妹尾を通り岡山へと続く東の街道。阿知3丁目・大橋家住宅を含めた西の街道。倉敷川に沿って船倉から南へ向かう街道。そして、商店街を抜け真備の方へと続く北の街道。これらの

街道沿いには町家が多く残っているため、対象エリアに含めることにしました。さらに、移転が決定している中央図書館と自然史博物館を含めた市立美術館周辺の敷地も、将来像を描く上で重要な場所であるため、対象としています。今後周辺地区については住民などの要望や必要に応じて対象を加えます。



【未来ビジョンの対象エリア】



① 阿知3丁目

② えびす商店街付近

③ 東町

④ 美術館・図書館・自然史博物館エリア

⑤ 倉敷川

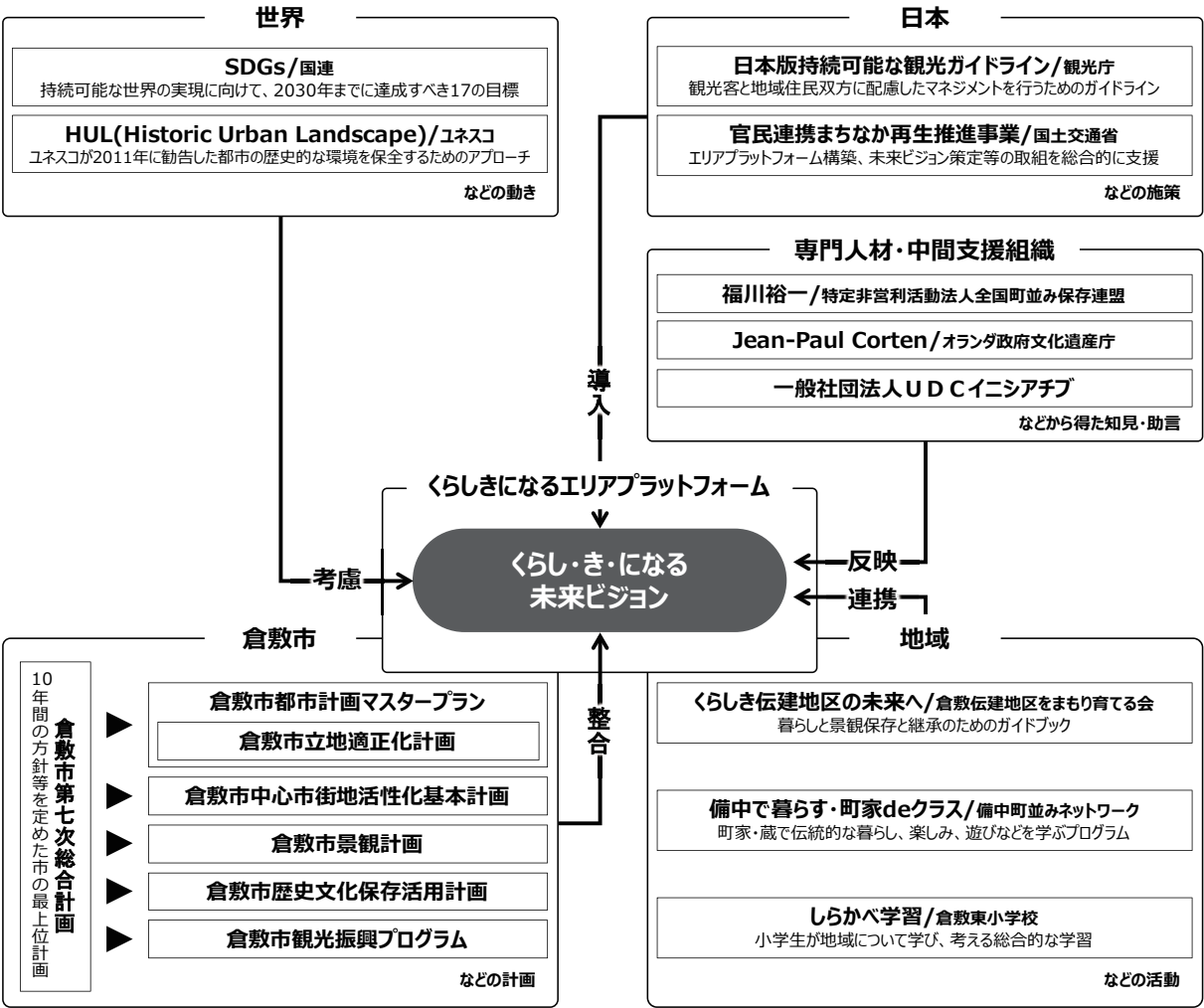
⑥ 本栄寺からの本葺きの藁の町並み

未来ビジョンは、対象エリアの将来像やその実現に向けた方針を示すもので、エリアに関心のあるすべての人が同じ方向を目指し、それぞれが当事者として行動するための道しるべとなるものです。そのため未来ビジョンに掲載する内容は、多様な関係者が集う 暮らしになるエリアプラットフォームでの議論や専門家等の助言を踏まえたものになっています。また、対象エリアに関して倉敷市が策定している各種計画と整合し、地域組織や学校等が地域で取り組んでいる活動とも連携しています。さらに、SDGs や HUL など世界の動き

を考慮するとともに、日本版持続可能な観光ガイドラインなど国が推進する施策も取り入れています。

未来ビジョンの目標年次は、SDGs の目標年次である 2030 年（短期）と、倉敷・児島・玉島の 3 市が合併した 1967（昭和 42）年から 100 年後となる 2067 年（長期）の 2 つを設定します。

なお、未来ビジョンは随時更新することを前提にしており、エリアプラットフォームの活動や社会情勢の変化等に柔軟に対応していくこととしています。



【ビジョンの位置づけ概要図】

HUL とは
HUL(Historic Urban Landscape) は都市の歴史的環境を保全するための新しいアプローチです。「HUL は、文化および自然的価値と特質が歴史的に積み重なった結果と捉えられ、「歴史的な中心」や「アンサンブル」という概念を超えて広がる、より広範な都市の文脈とその地理的な環境を含む都市化した地域。この広い文脈には、とりわけ、サイトの地誌・地形・水文学自然の特徴、歴史的および現代の人工的環境、地下および地上の社会基盤施設、オープンスペースと庭園、土地利用のパターンと空間構造、認識と視覚に関することを含み、のみならず都市構造のあらゆるその他の要素を含む。それはまた、社会的および文化的な行為と価値、経済的プロセスおよび多様性と固有性に関連する無形の歴史遺産を含む。」と定義されています。

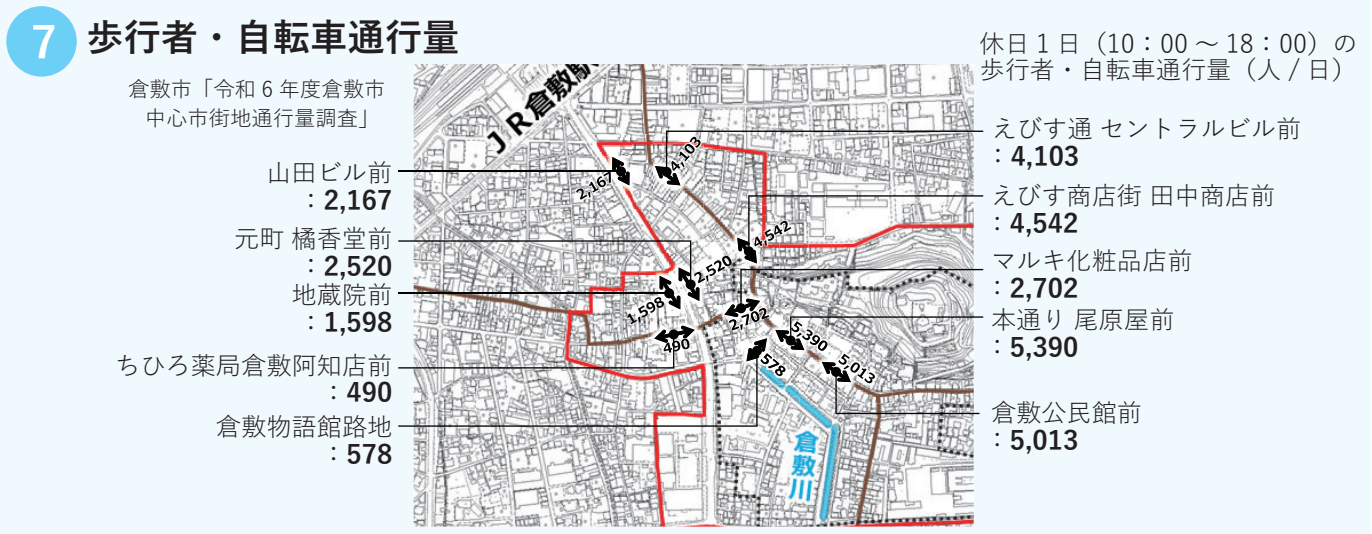
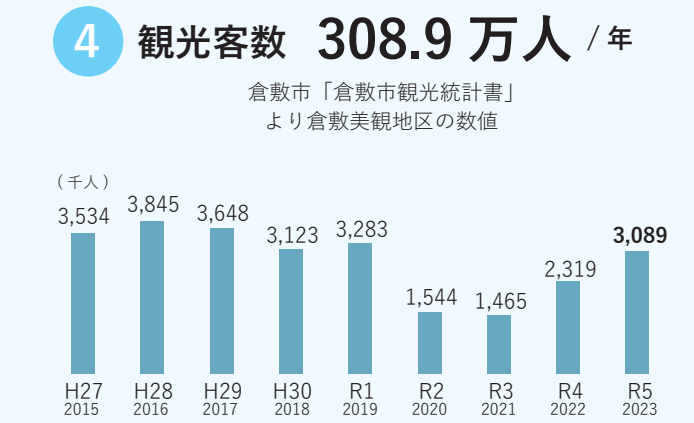
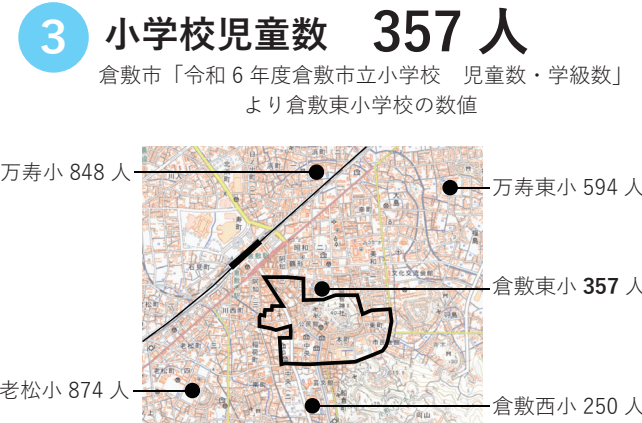
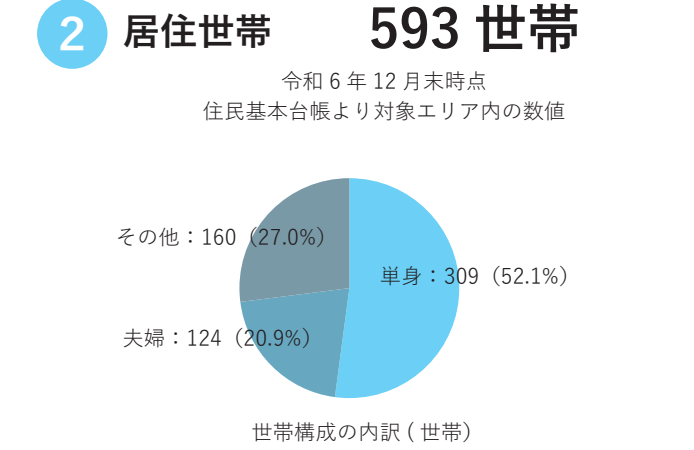
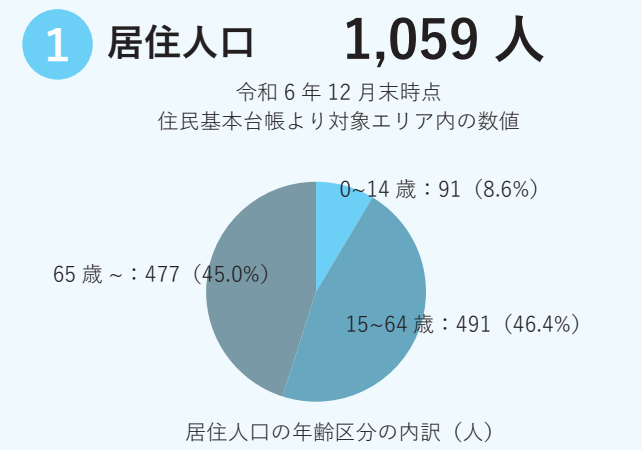
未来ビジョンを構想する前提として、エリアのいまをデータでみてみましょう。

エリア内には 1,059 人が住んでいます。人口に占める 65 歳以上の割合は 45% で、倉敷市全体 (28%) と比べて高い高齢化率を示しています。また、593 の居住世帯のうち、過半数が単身世帯となっており、平均世帯人数は 1.79 人と、倉敷市全体 (2.14 人) よりも低い状況です。

エリアの北側には倉敷東小学校が隣接しており、

357 人の児童が通学していますが、児童数は減少傾向にあります (令和元年度児童数 : 430 人)。

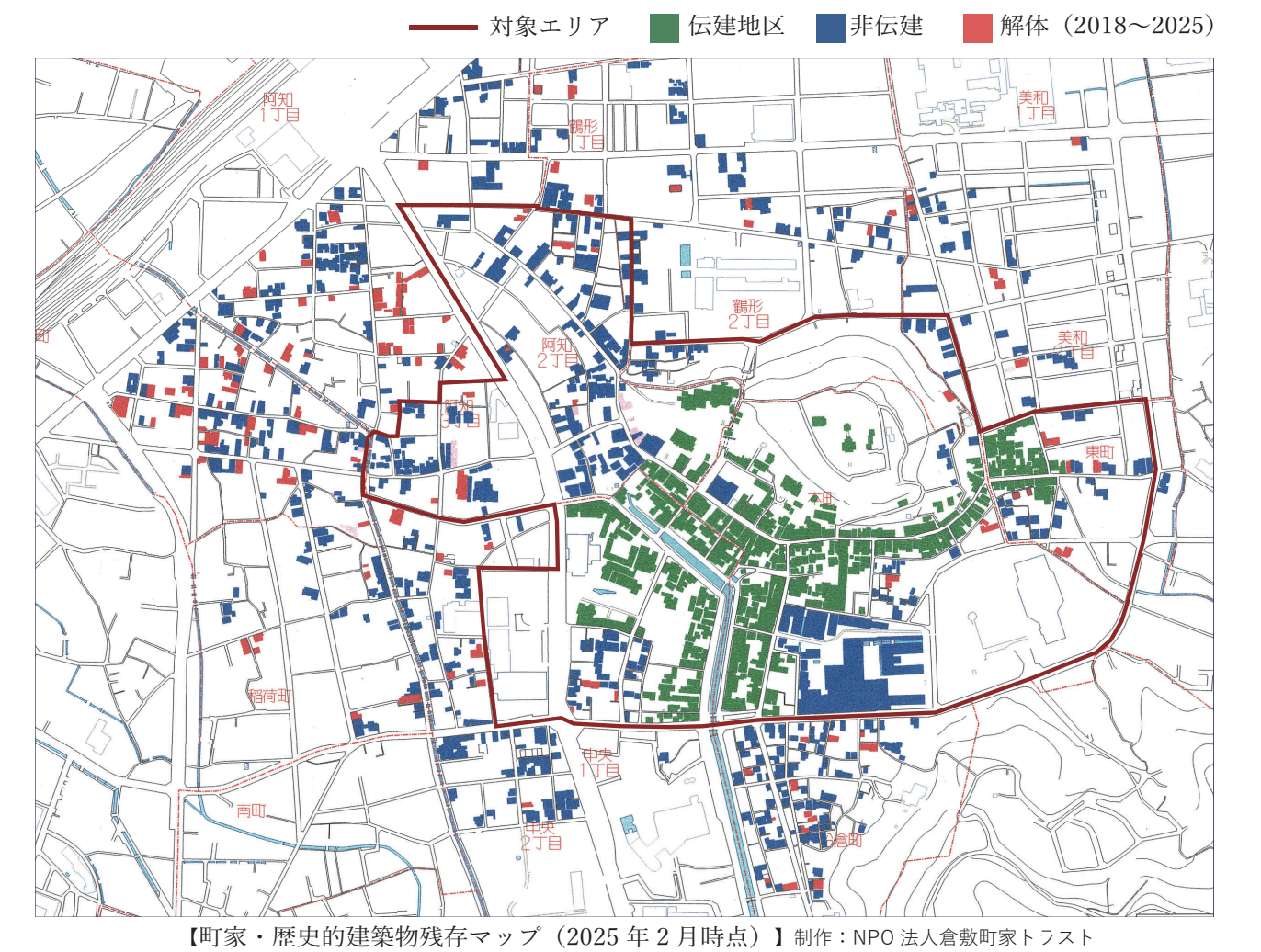
エリア内に存在する倉敷美観地区には、毎年多くの観光客が訪れています。新型コロナウイルス感染症の影響により 2020 (令和 2) 年に大きく減少しましたが、現在では 300 万人を超えるまでに回復しました。これは、倉敷市人口の 6 倍以上、エリア内人口の約 3,000 倍もの数になります。



8

町家・歴史的建築物

緑 (伝建地区)、青 (非伝建地区) で色付けされた建物は歴史的建築物と町家及び昭和に新築、改装された文化・観光施設などです。赤は (2018 年から 2025 年の間に) 解体、更新された建物です。倉敷町家トラストが 2025 年に実施した調査では、非伝建地区の残存歴史的建築物が 730 件確認され、2018 年から 7 年の間に 152 件失われたことが分かりました。駅前大通より西地区の阿知 3 丁目、川西町地区では、30% 前後の建築物の解体が進んでいます。解体は 2023 年以降加速しており、このペースで進んだ場合、40 年後 (3 市合併 (1967)、及び保存条例 (1968) が施行されて約 100 年後) の 2067 年には、ほぼ全ての歴史的建築物が姿を変える恐れがあると考えられます。



【町家・歴史的建築物残存マップ (2025 年 2 月時点)】制作 : NPO 法人倉敷町家トラスト

倉敷のまちは、古くは東高梁川の河口部に位置していました。16世紀半ばから新田開発のための干拓が進み、また物資を集積し船運を行う河川が整備され、小さな漁村集落が人口の増加と共に町として形成されていきます。城下町のように一定の空間を都市計画的に作り上げた町並みではなく、時代の変化にあわせて、自然の地形に沿うようにまちが広がっていきました。

江戸中期には幕府の直轄地（公領地）として代官所の陣屋が設けられ、備中・美作・讃岐・備後の幕府領の物資集積・流通の中心地として商業的に発展します。地域で財を成した資産家は大型町屋と倉を建築し、倉敷川畔を中心に家並みが形作

中世後期 1500 年ごろ 瀬戸内海に浮かぶ島の小さな漁村。



江戸時代 1710 年 浅瀬を干拓、運河のまちに。物資の集散地として繁栄。



明治時代 1910 年 駅の開設、倉敷紡績所設立。都市施設の近代化が進む。



昭和初期 1928 年 郊外の宅地開発が進む。美術館や病院がつけられる。

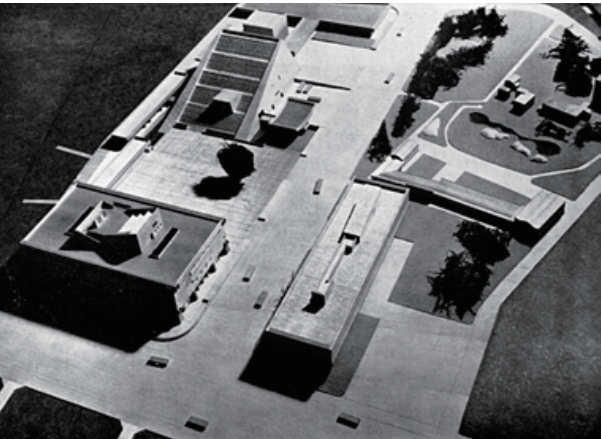


【復元イラストマップ】 画：梅田美里 監修：成清仁士
古地図所蔵：倉敷市歴史資料整備室、国土地理院

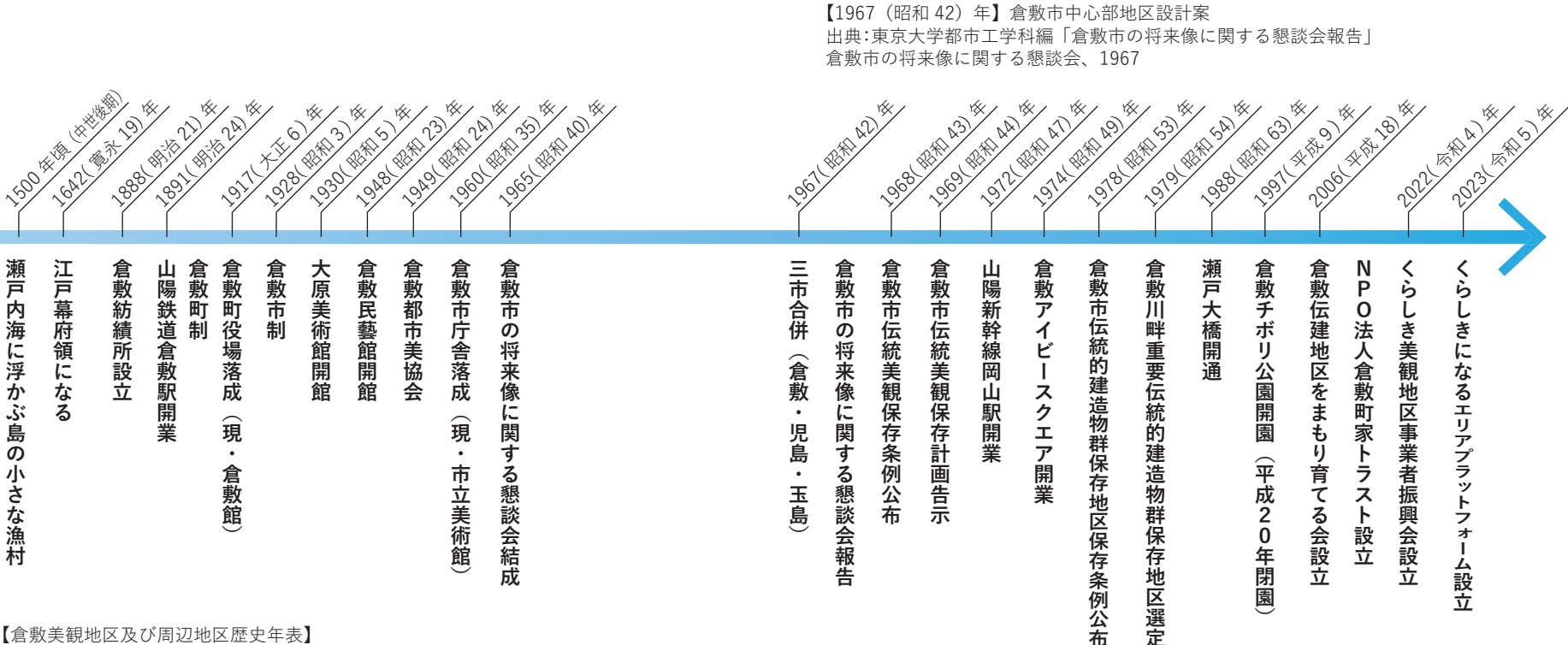
られ、往還道路に沿って町並みが広がっていきました。

明治に入ると、代官所の跡地に倉敷紡績所が設立され、紡績産業やイ草産業を中心に事業所、工場、倉庫群の建設も進み、山陽鉄道倉敷駅の開業と共にさらにまちが広がり、商工業都市として発展していきます。

大正期は行政の核が鶴形山の北に移り、まちが周辺に拡大していく中で公共施設、銀行、倉敷中央病院などが近代和風、疑洋風の新しい建築物として登場します。市民の住宅も長く培われた日本建築の伝統的な技術で建てられ、昭和を迎えます。このような経緯の中で、倉敷の町並みを形成する

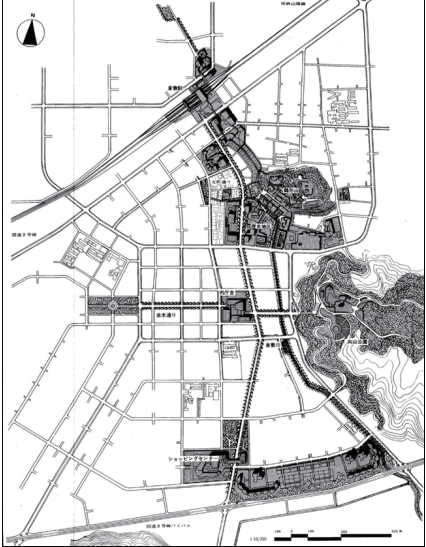


【1960(昭和 35)年】倉敷市庁舎・市民広場・公会堂総合計画
出典：丹下健三研究室「倉敷市庁舎・市民広場・公会堂総合計画」、『建築文化 1960 年 9 月号』彰国社、1960、p.38



倉・町家群はほぼ現在の中心市街地の範囲で建てられ、戦前の都市景観を形成しました。

戦争と復興により大都市や地方の中心的都市の多くの建築物と町並みが消失する中で、戦火を逃れた倉敷市では、1948(昭和 23)年に、国内では戦後の古民家再生の第一号ともいえる倉敷民藝館が開館。翌年、有志により倉敷都市美協会が設立され、戦後の倉敷市中心部の歴史地区での建造物と町並み景観保存のきっかけをつくります。1967(昭和 42)年、倉敷市は周辺 2 市(児島市・玉島市)と合併するにあたり、事前に「倉敷市の将来像に関する懇談会」を組織し、倉敷川畔の歴史的景観の保存と整備案をまとめた報告書が出されました。



【1967(昭和 42)年】倉敷市中心部地区設計案
出典：東京大学都市工学科編「倉敷市の将来像に関する懇談会報告」倉敷市の将来像に関する懇談会、1967

合併の翌年となる 1968(昭和 43)年、全国に先駆けて「倉敷市伝統美観保存条例」を市が独自に制定し、1969(昭和 44)年に「倉敷川畔特別美観地区」を指定します。その後、1975(昭和 50)年に国が「伝統的建造物群保存地区」制度を創設し、1978(昭和 53)年に市が「倉敷市伝統的建造物群保存地区保存条例」を公布。1979(昭和 54)年に「重要伝統的建造物群保存地区」として国の選定を受けます(13.5ha。1998(平成 10)年には 15ha に拡大)。その結果、重要伝統的建造物群保存地区を核とした歴史的都市景観が今に残ることになります。



【1969(昭和 44)年】四方櫓構想
出典：浦辺鎮太郎建築展実行委員会 監修
「建築家浦辺鎮太郎の仕事」、学芸出版社、2019



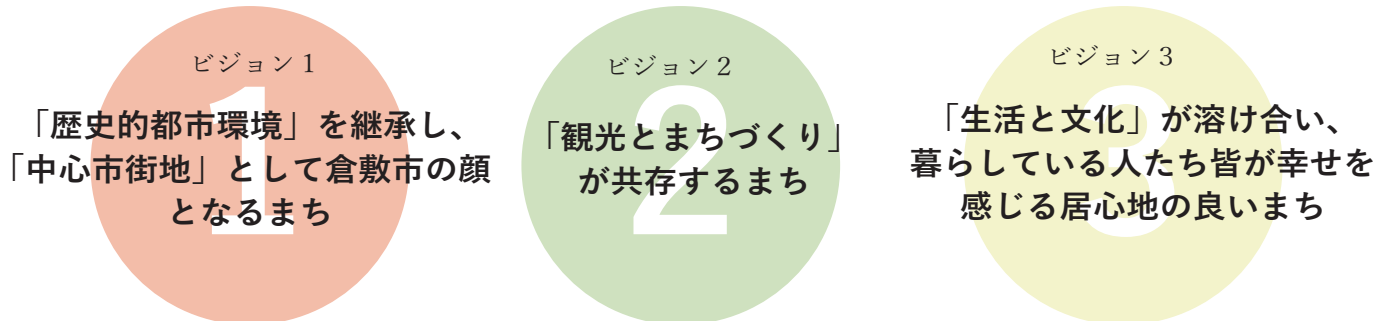
【岡本直樹氏による鳥瞰図(1963 年／2005 年)】
くらし・き・になる未来ビジョン

くらしきになるエリアプラットフォームで多くの
方々と未来のまちの姿について議論を重ねてきた結
果、参加者の共通認識として、未来ビジョンが掲げ

るべき基本的な理念と将来像（ビジョン）が浮かび
上がってきました。

<基本的な理念>

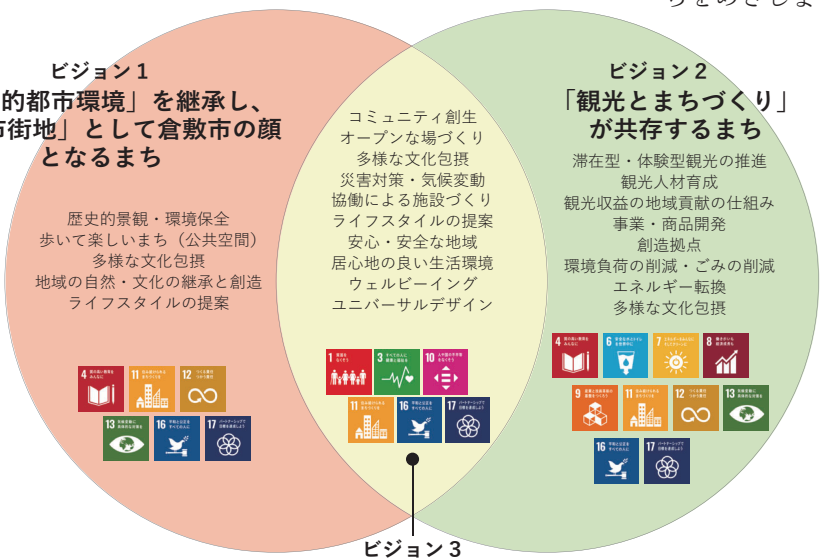
倉敷のまちの歴史的な遺産を活かすことを通して持続可能なまちの未来を拓く



倉敷の中心部には歴史的な都
市の姿が残っています。歴史
的都市環境には、有形無形の
ものがあります。歴史を重ね
たまちの姿、コミュニティ、
商い、暮らしぶりを踏まえた
持続可能な都市環境と美しい
都市景観が広がる倉敷市の顔
となるまちをめざします。

観光「と」地域づくりは平仄の
合うまちづくりができるので
しょうか。伝建地区は観光の中
心ですが、住民も暮らしていま
す。その周辺にも暮らしのまち
があります。観光地というだけ
ではなく、「観光まちづくり」だ
けではない、訪れてみたいまち、
住み続けたいまちとして「観光
とまちづくり」が共存するまち
をめざします。

倉敷のまちにはこれまで積み重ね
られてきた独自の相互扶助の文化
があります。加えて丁寧な「生活
と文化」が溶け合うことによって、
「誰一人取り残さない」だけでなく、
暮らしている、働いている人たち、
訪れる人たちが皆が幸せになる「ウェ
ルビーイング」を感じられるまち
をめざします。どこにも老人・若
者たちや子供たちがいて、くつろ
げて、魔法のようなインスピレー
ションが湧き立ち、知らない人と
打ち解けて居心地が良く、誰もが
安心して暮らしを楽しんでいるま
ちをめざします。



3つの将来像（ビジョン）を実現する方策のひと
つとして、建築家 クリストファー・アレグサンダー
によって考案された「パタンランゲージ」を参考に、
倉敷独自の「くらしきになるパタン」をつくりました。
エリアプラットフォームの議論の中で繰り返し登場
する単語、参加者の90%が共感できる言葉等から、
エリアが目指す未来のまちに共通する様子やかたち、
仕組み、関係などを抽出し、56のパタンとして整理
したものです。エリアに関わる人々がパタンを共通
言語として認識し、ビジョン実現に向けた取組を考
え、仲間や地域と共に活動することで、生き活きと
した質を創り出すことができると考えています。
なお、エリアプラットフォームでの今後の議論に
応じて、パタンは随時追加・修正等を行います。

くらしきになるパタン活用の具体例
例1 倉敷らしいプロジェクトの組み立て
プロジェクトにおけるコンセプトや方向性の構築等
例2 みんなで考えるツール（ワークショップ等）
課題解決や方向づけ、施設づくりにおける補助線（ガ
イド）等
例3 エリア内の特定の地区や通りの特徴づけ
特徴をもった地区や通りを形成するための方向性づ
くり、周囲の人との共通意識の醸成等
例4 公共政策・公共事業での活用
行政計画への反映、事業の方向性検討、施策立案等
例5 学校教育・研究のテーマや題材
総合的な学習、自由研究、卒業研究などにおけるテ
マづくり、テーマ設定の素材等

1 未来につながる 歴史的な景観	2 自分のペースで 歩き、立ち止ま れる通り	3 多様な文化を 尊重する、包容 力のあるまち	4 受け継がれた 自然・文化を 守り育てて 未来へ贈る	5 自分らしい 生き方の ヒントが見つかる	6 世代を超えて つながる コミュニティ	7 誰でも気軽に 立ち寄れる、 開かれた空間	8 災害に備え、 自然と共存する
9 みんなで "つくる" 施設	10 人の目による 防犯、人の手 によるサポートが 見える地域	11 心落ち着く、 くらしの場所	12 みんなが快適に 過ごせる デザイン	13 地域に浸かり、 "くらしきになる" 旅	14 観光人材を 地域で育てる	15 観光行為が 地域活動に還元 される仕組み	16 地域の想いを 形にする事業 ・商品の開発
17 創造力を 刺激する、 自由な空間	18 環境にやさしい 選択をする	19 若者が地域で 挑戦し、地域が 若者を応援する	20 子どもや若者の 居場所をつくる	21 高齢者が ひとりでも孤独 を感じず、豊か に生活できる	22 多様な層の人が くらす	23 職住一体の、 地域と共に成長 するくらし	24 くらしに必要な 機能が、まちに 充実している
25 生活の息吹が 感じられ、 まちにくらしが 見える	26 くらしの文化を 伝える	27 来訪者と住民が 地域資源を 分かち合い、 共に過ごす	28 中長期滞在者が 地域に 溶け込み、 生活を楽しむ	29 空き家情報に 出会い、くらしを 継承する	30 物語のある 店主のいるお店	31 地域の産業を 活かして地域で 循環する商い	32 観光客と住民と 店主の交流
33 朝や夜の時間帯 を楽しめる	34 ゴミがない 美しい環境	35 まちの物語、 人の想いに深く 触れる機会	36 "本物"や "実物"に 触れられる	37 多様な学びの 機会を提供する、 開かれた環境	38 学びを深める 組織、拠点	39 自由に使える 広場のような 公共空間	40 きれいな倉敷川、 多様な 水の景色
41 みんなが 親しめる 倉敷川	42 生活文化を 楽しめる機会	43 だれもが エリアに 関われる	44 独自の文化や 習慣をきちんと 知ることができる	45 先人たちの想い が込められた、 倉敷の美意識を 感じる	46 伝統行事・民俗 文化が維持 できる仕組み	47 住み続けられ、 次世代につなぐ 仕組み	48 若者が 住めるまち
49 短期間でも 住んで働ける	50 歩いて楽しく 暮らせる、 観光できる	51 美観地区と 周辺地域が 役割を補完して 支え合う	52 若者が地域に 関わるきっかけと なる拠点	53 急がないことの 豊かさに気付く、 人中心の通り	54 エリア全体の 共有できる ビジョンを描く	55 ライフスタイルに 寄りそう商店街	56 来訪者と市民が 出会う広場

【くらしきになるパタンの一覧】

各ボタンは、下に示すボタンカードによって具体的な考え方やイメージを補足します。カードの表面にはボタン名とイメージを伝えるイラストや写真、

**若者が地域で挑戦し、
地域が若者を応援する**



対等の立場で物事を一緒に考える機会を増やしていくと何か新しい変化がみられるのではないのでしょうか

来訪者と住民が地域資源を
分かち合い、共に過ごす



資源の価値を探す、知るところを始めましょう。
暮らしに関わる店舗や場の創生と、
伝統行事の復活や継承のプログラムを創ろう。

だれもがエリアに関われる



住んでいる人、住んでいない人などに関わらず、
誰でも関われる「くらしきになる
エリアプラットフォーム」を育てていきます。

急がないことの豊かさに
気付く、人中心の通り



のんびりと心穏やかに過ごせば、
今まで見落としていた豊かさに気づくことができます

くらしきになるパタン配置シートの例

1つのパタンを1枚の瓦に見立て、なまこ壁状に配置します。接するパタン（瓦）同士は関係性が深くなるように配置することで、自身の活動におけるパタンの繋がりを整理することができます。

関係性の深いボタン

職住一体の、
地域と共に成長

ユース会員の思いを代表して、ユースセッションの企画・運営の中心として活動する4人のコア

メンバーから、未来への思いを寄せてもらいました。

地元を好きになっていく若者を増やしたい。
倉敷というまちが居心地が良い場になり、自身が
中心となって人や場をつなげる役目として活動
していく中で仲間を作りたい。

私にとって倉敷は身近な存在になっています。
倉敷を若い世代から盛り上げ、伝えられるように、
活動していきたい。

倉敷は面白い町。
だからこそ、より多くの高校
生や大学生に興味を持って
もらい、目に見える形で面
白さを後継していきたい。

倉敷の魅力、より多くの若者に伝えたい。
そして、次世代を担う若者が住みたくなるまちを。
倉敷の未来について一緒に熱く語り合える仲間
を増やしていきたい。



【ユースセッションまとめ（2024（令和6）年9月14日開催）】

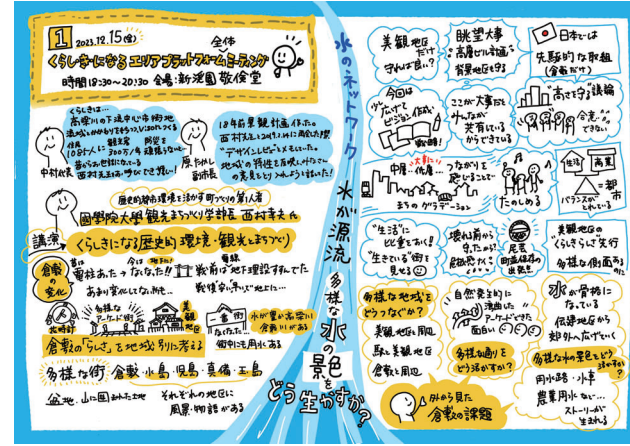
ビジョン策定のプロセス

くらしきになるエリアプラットフォームを進めてきた未来ビジョン策定のプロセスを整理します。全体会議やチームミーティングなどの場に出されたキーワード等は、「グラフィックレコーディング」の手法により図やイラストを中心に分かりやすくまと

めています。

まとめはホームページ上で公開しており、エリアプラットフォームの活動を発信するツールとしても活用しています。

3. ビジョン（理念と方針）



くらしきになるミーティング

UDC イニシアチブ・三牧浩也氏、Walk Works・遠藤翼氏による、ビジョンやエリアプラットフォームに関する講演

くらしきになるミーティング

暮らし・商・学・ぶ・楽しむ・磨く・創るの6テーマについて議論

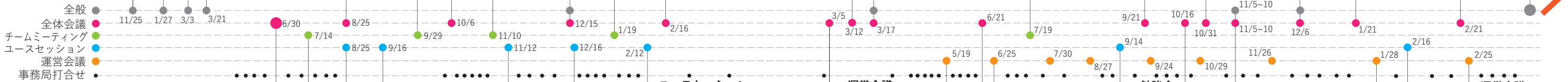
くらしきになるミーティング

「倉敷らしさ」について議論

くらしきになるミーティング

未来のまちの「機能」と「姿」について議論

2022(令和4)年度 2023(令和5)年度



エリアプラットフォーム設立総会
くらしきになるエリアプラットフォーム設立

チームミーティング
テーマごとの課題と
解決策について議論

ユースセッション
これまでの振り返り、
大事にしたいポイント
を整理

ユースセッション
これまでの振り返り、
大事にしたいポイント
を整理

ユースセッション
これまでの振り返り、
大事にしたいポイント
を整理

ユースセッション
これまでの振り返り、
大事にしたいポイント
を整理

ユースセッション
これまでの振り返り、
大事にしたいポイント
を整理

ユースセッション
これまでの振り返り、
大事にしたいポイント
を整理

ユースセッション
これまでの振り返り、
大事にしたいポイント
を整理

ユースセッション
これまでの振り返り、
大事にしたいポイント
を整理

ユースセッション
これまでの振り返り、
大事にしたいポイント
を整理

ユースセッション
これまでの振り返り、
大事にしたいポイント
を整理

ユースセッション
これまでの振り返り、
大事にしたいポイント
を整理

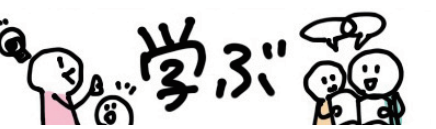
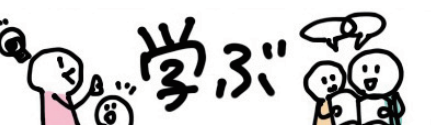
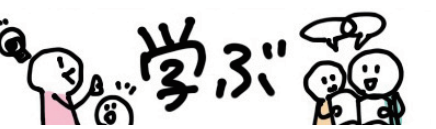
ユースセッション
これまでの振り返り、
大事にしたいポイント
を整理

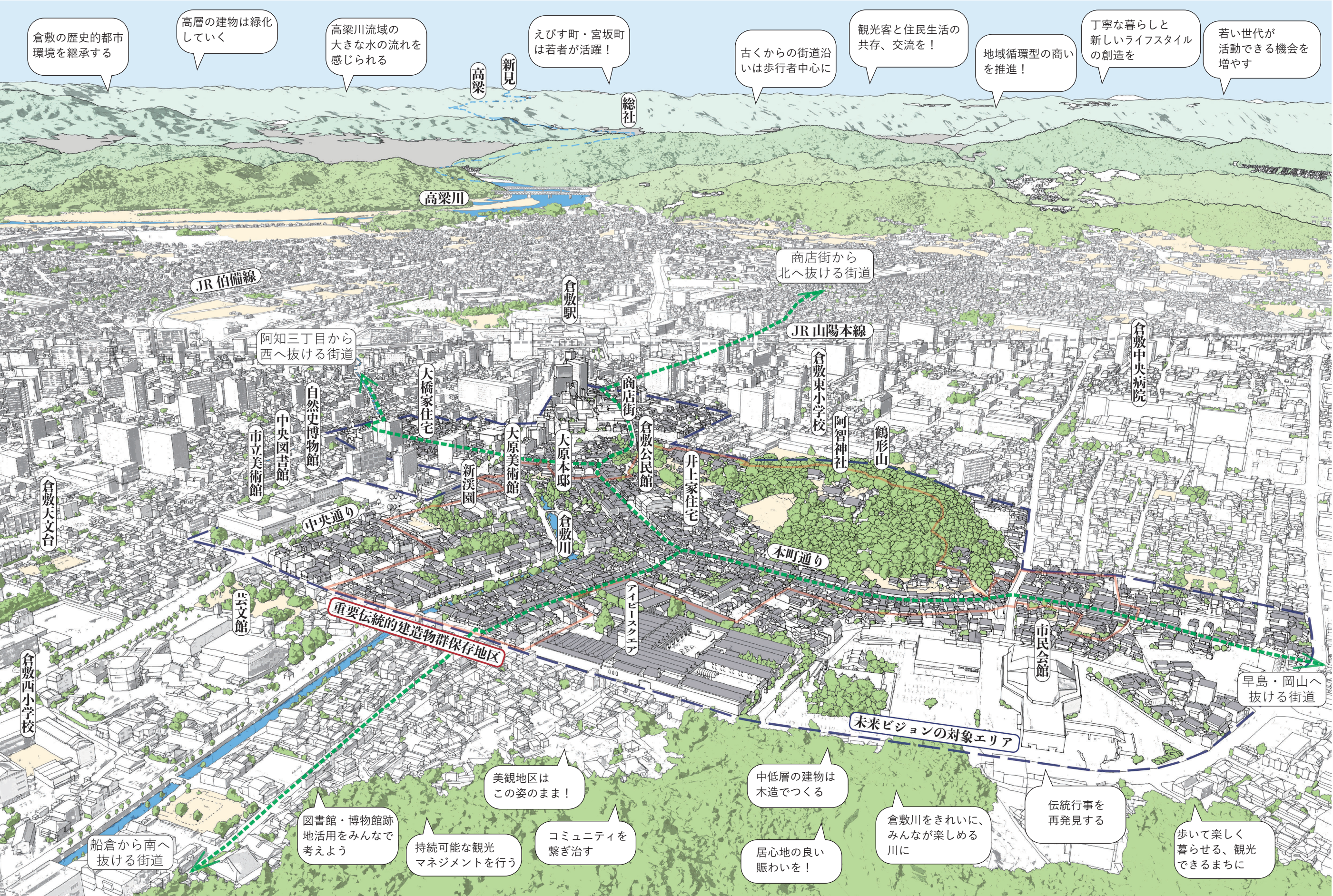


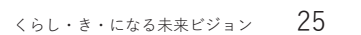
エリアプラットフォームでこれまで議論してきた6つのテーマ（暮らす・商う・学ぶ・楽しむ・磨く・

創る）ごとの問題、方針、取組を下のように整理しました。

6
つ
の
テ
ー
マ

問題	方針	取組
 暮らす - 観光地のイメージが強すぎる - 美観地区は家賃が高く、周辺は不動産情報が少ない - 暮らしの文化が見えづらい - 住宅が店舗に変わっていく	 暮らす - 観光客と住民生活の共存、交流を図る - 中長期滞在者を受け入れる - 多様な層の人が暮らすまちにする - 生活の一部をエリアが担う「暮らし」の実現 - 職住一体の家族を増やす	 暮らす - お試し居住、長期滞在宿泊体験 - 空き家情報のオープン化 - 美観地区周辺に居住エリアをつくる - 倉敷らしいまちや暮らしの姿を発信 - ワーケーション、近くに働く場をつくる
 商う - 地域外にお金が行く - 住民生活と商い・イベントとの間に不調和 - ゴミ問題 - 観光客向けの店舗構成（地元向けの商いが不足）	 商う - 地域循環型の商いを推進する - 観光客と住民と店主の交流を促す - ゴミのない美しい環境を維持する - 地域の産業を活かした商いを増やす - 物語がある店主の居る店舗を増やす	 商う - 観光税を導入し資金を地域に還元 - 商いの作法に関するルールづくりと周知 - 観光客のゴミ捨て対策を強化 - 新しい商品開発の仕組みと場をつくる - 倉敷型の商いスタイルを表彰
 学ぶ - 高校生や大学生の居場所が不足 - 地元・倉敷のことを学ぶ機会が少ない - 外に出たときに倉敷のことを紹介できない - 学びの場が少ない - 集まって学べる場所が少ない	 学ぶ - 若い世代が活動できる機会を増やす - 地元の人と繋がる機会をつくる - 本物、実物に触れられる機会をつくる - 知識を押し付けるのではなく、自分達で気づくヒントをこっそり仕掛ける	 学ぶ - 子どもが学んだことを大人に伝える仕組み - まちを学ぶ地域づくり塾を開設 - まちを知る宿泊体験を提供 - 広場のような公共空間を充実させる - シンクタンク（学びの拠点）をつくる
 楽しむ - 倉敷川が十分に活かされていない - 活かしきれていない時間帯（月曜・朝・夜） - 美観地区周辺への回遊性が不足 - 食や住を楽しむ場所が少ない - サブカルを楽しめる場が少ない	 楽しむ - 倉敷川をきれいに、みんなが楽しめる川に - 月曜・朝・夜の時間も楽しめるようにする - エリアに関わるハードルを低くする（ゲーム要素、食との組み合わせ、遊びなど） - 多様な人が楽しめる環境をつくる	 楽しむ - 倉敷川の清掃活動に参加 - 朝ジョギング＋地元食材の提供、月光浴 - ちいさな倉敷体験（民藝、畳の空間など） - 町家暮らしが楽しめる住宅を整備 「楽しむ」を人から人へ伝える情報発信
 磨く - 歴史文化や暮らしぶりを把握できていない - 想いや理念が若者に伝えられていない - 建物の老朽化 - 美観地区周辺の町並み・町家の消失 - 磨き方のイメージが共有されていない	 磨く - 伝統行事を再発見する - 倉敷独自の文化や習慣をきちんと伝える - 地域資源を包括的に把握し管理する - 町家の保存・景観保全について議論する - 倉敷の美意識が見える化する	 磨く - 伝統行事に絡めたビジネスを展開 - 地域資源を地元や若者に伝える場づくり、マネジメント体制の構築 - 地域資源の包括的な調査を実施 - 町家保全の技術者や技術者育成を支援
 創る - 生活者と観光客の分離 - 車と歩行者が接触する危険性 - 子どもが遊べる場が少ない - 若者が住まない - 倉敷ならではのライフスタイルが見えない	 創る - 地域住民と観光客の共存を図る - 歩いて楽しく暮らせる、観光できるまちに - 子どもが遊べる場を増やす - 住み続けられる、次世代へ繋ぐ仕組み - 伝建地区の内・外の役割を使い分ける	 創る - お試し居住、下宿街 - 車が入らないモデルエリアを設定 - 遊休空間を暫定利用する社会実験 - 若者の拠点づくり、「まちづくり部」結成 - ライフスタイル LABO を創設





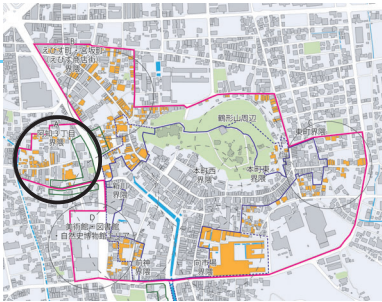
境界とは
 倉敷のまちには「境界」があります。「境界」はおおよそ 250m ほどの距離のなかに納まります。人のつながるコミュニティがある境界は昔から何かあれば協力しあう、顔のわかる町内の単位が基本になっています。だんだんと失われつつありますが、現在でもいくつかは、この境界が感じられるつながりがあり、生活圏として重要なスケール感です。現在も残るこの境界のスケール感を大事にしてまちづくりを考えていきます。
 エリア内の町家やお店が「点」だとすると、通りが「線」、そして境界は「面」としてのつながりです。「点」「線」「面」のつながりや広がりも大事にしていきたいと思います。



境界で動いているプロジェクト

対象エリア内には境界とのつながりの中で、いろんなプロジェクトの動きがあります。個人がこつこつ始めたもの、組織や団体が地域と協力しながら広がっているもの、行政が中心となって動くものもあります。エリアプラットフォームでは、こうした境界とのつながりを持ちながら進めるプロジェクトを応援しています。
 あなたも新しいプロジェクトを動かしてみませんか？
 プロジェクトには、くらしになるパタンを活かすこともできます。今思い描いているプロジェクトに、くらしになるパタンを活かしてみましよう。

阿知 3 丁目西部町内は、国指定重要文化財「大橋家住宅」があり、また伝統的な町並みの残るエリアです。明治～大正、昭和初期には何でも揃う町として賑わっていました。現在は、商店は少し減ったものの、住民は変わらず住んでおり、町内会活動も盛んです。



境界で動き始めている
 主なプロジェクト

シェアダイニング 四十瀬屋

歴史的な蔵を活用して、近所の方々が集まってお茶をしたりできる場所をつくっています。みんなで食事やおしゃべりをしたり、コンサートをしたり。地域のみなさまが楽しめる場所にたまに来訪者も加われる、新しい使われ方を期待しています。



関連パタン：

- 心落ち着く、くらしの場所
- 生活文化を楽しめる機会
- まちの物語、人の想いに深く触れる機会

阿知フェス

6 月初旬「通りに人の流れを呼び戻そう」と、阿知町西部町内会がエリア内の各戸・店舗に呼びかけ、空きスペースも利用して音楽、芸能、茶会そして多数の屋台なども出店して開催する初夏のお祭り。

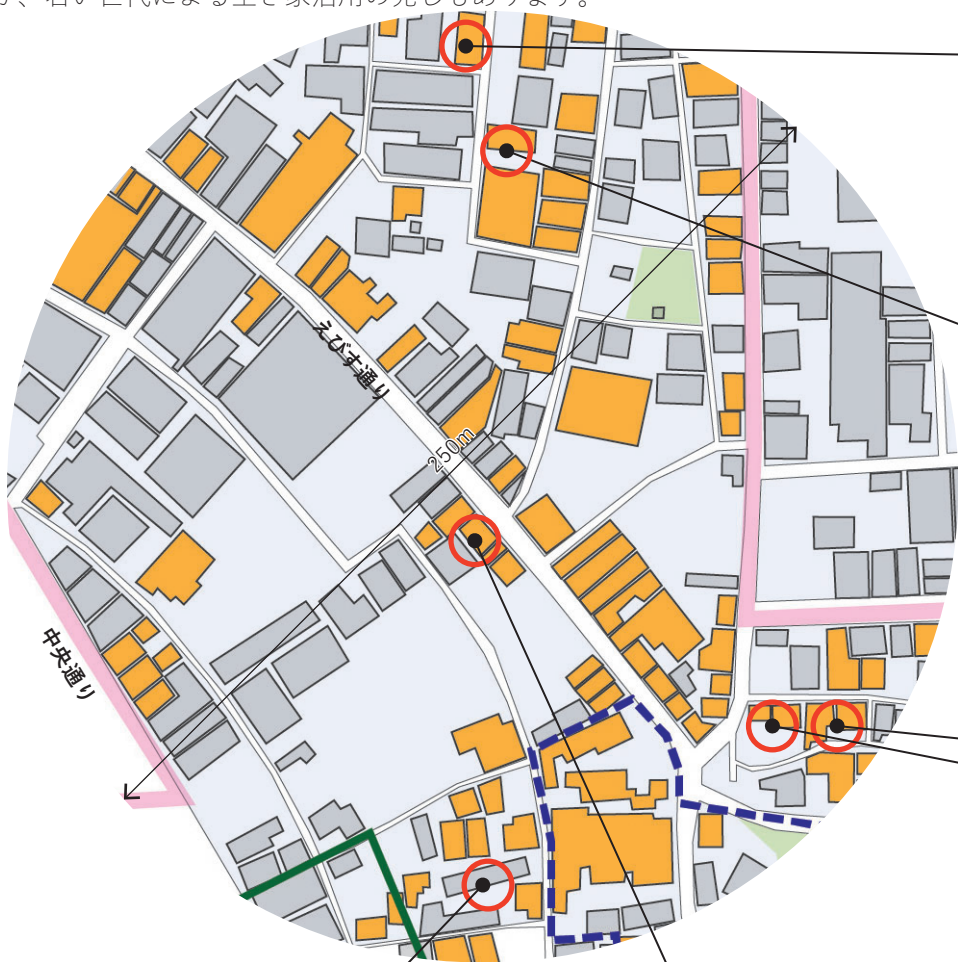
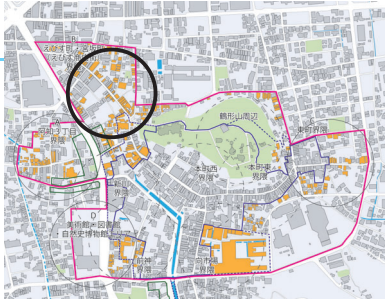


関連パタン：

- 観光行為が地域活動に還元される仕組み
- 来訪者と住民が地域資源を分かち合い、共に過ごす
- 急がないことの豊かさに気付く、人中心の通り

B えびす町・宮坂町（えびす商店街）界隈

倉敷えびす商店街は美観地区に隣接したアーケードを持つ商店街で、倉敷の祭りに欠かせない「すいんぎょ」が生まれた歴史ある界隈でもあります。旧街道沿いに発展したこの商店街と周辺には歴史的建造物が比較的多く残されています。昔ながらの暮らしの気配が感じられるこの界隈は高齢化が進んでいますが、若い世代による空き家活用の兆しもあります。



界隈で動き始めている
主なプロジェクト

インバウンド拠点 ログインくらしき

伝統・文化・産業・自然が色濃く残る高梁川流域の観光のハブとなる施設。観光案内所の機能も備えたツアーデスクやレストラン、ホテル、ショップ、それぞれが高梁川流域の素材を活かした商品を展開いたします。



関連パタン：

地域に浸かり、
"くらしになる"
旅

観光人材を
地域で育てる

多様な文化を
尊重する、
包容力の
あるまち

市民活動交流拠点 仁科商店 iroiro

商店街のなかに若者の活動の場を用意しています。だれでも利用できる開かれた場です。



関連パタン：

若者が地域で
挑戦し、地域が
若者を応援する

若者が
地域に関わる
きっかけとなる
拠点

ライフスタイル
に寄りそう
商店街

界隈で動き始めている
主なプロジェクト

図書館カフェ ひとひ

一箱貸しのシェア型図書館カフェ。
ひとり時間を満喫できる
一日をどうぞ。



関連パタン：

誰でも気軽に
立ち寄れる、
開かれた空間

職住一体の、
地域と共に
成長する
くらし

自分らしい
生き方の
ヒントが
見つかる

デザイナー活動拠点
レイドバックデザイン

地域に根づいて幅広く活躍する若手デザイナーの拠点。現在、町家の改修を進めています。くらしになるエリアプラットフォームのホームページもつくっています。



関連パタン：

創造力を
刺激する、
自由な空間

地域の想いを
形にする
事業・商品の
開発

物語のある
店主のいるお店

交流・情報発信拠点 宮坂町の長屋

若者がワークショップをしながら改修した交流・情報発信拠点です。地域内外の交流を通して、倉敷のいまを発信していきます。近々、駄菓子屋さんも月に一度くらい開く予定です！！



関連パタン：

若者が住める
まち

だれもが
エリアに
関われる

みんなで
"つくる"
施設

子ども支援拠点 宮坂町の家

子どもたちがいつでも立ち寄れる、自分の居場所です。子どもソーシャルネットワークつばさ、岡山こども食堂支援センターでは若者が挑戦し活動しています（内部空間は建築当時の間取りに改修しました）。



関連パタン：

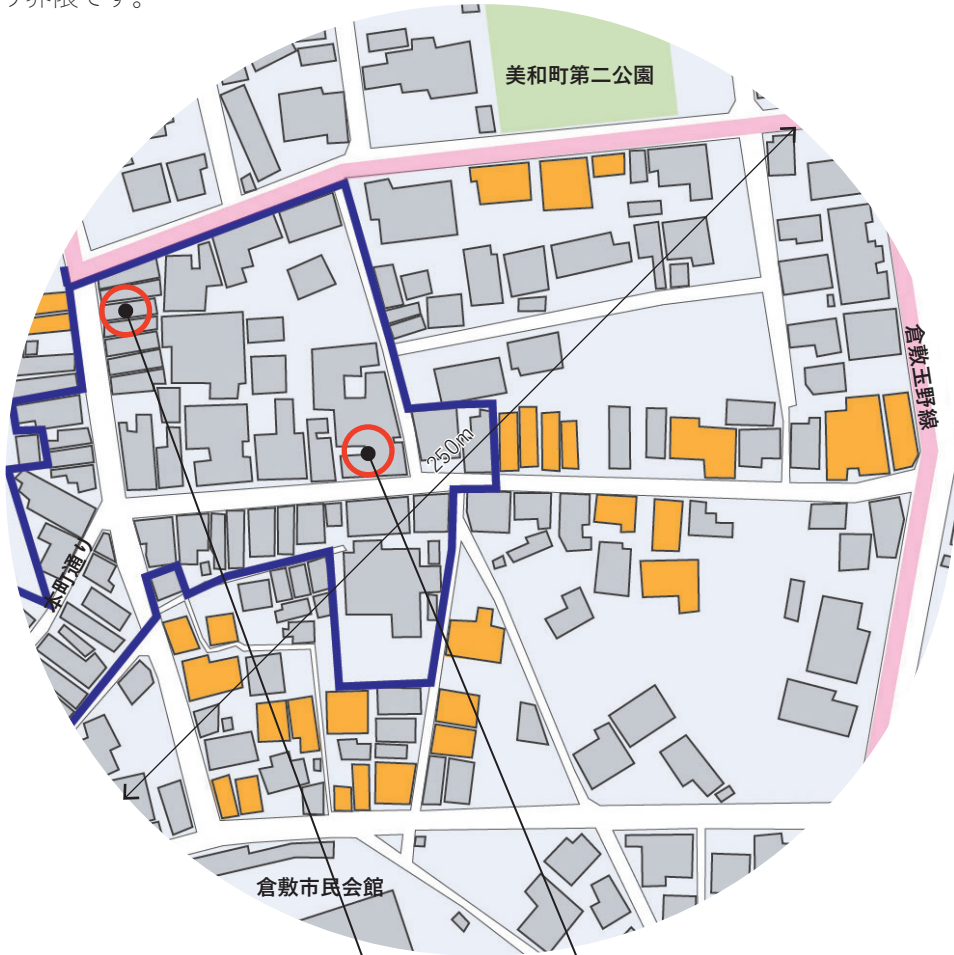
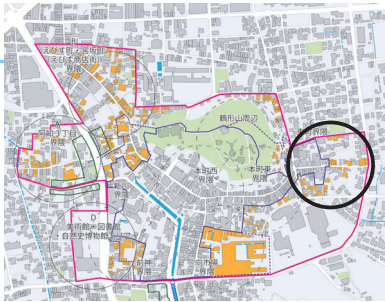
子どもや
若者の
居場所を
つくる

若者が地域で
挑戦し、地域が
若者を応援する

多様な学びの
機会を提供する、
開かれた環境

C 東町境界

重伝建地区の一番東で、古くは倉敷村、万寿村、帯江村の境界の地域で、幹道は生活街でした。商店、長屋、農家が混在し、古くから多様な住民が暮らし、程よいコミュニティのつながりがある地域です。今も古くから住んでいる方々が商いを続けており、重伝建地区は戦前の姿をほぼそのまま残しています。観光客の回遊が始まり人通りは増えましたが、落ち着いた賑わいが似合う境界です。



境界で動き始めている主なプロジェクト

交流施設 旧クレセント学院

鶴形山東側の通りに面する二軒長屋の町家。地域住民の交流と中長期の滞在ができる拠点として、間取りを元に戻す形で改修を進めています。



関連パタン：

来訪者と市民が
出会う広場

中長期滞在者が
地域に溶け込み、
生活を楽しむ

みんなで
"つくる"
施設

旧家の生活体験拠点
倉敷十六屋～難波家本宅
明治末から大正期の倉敷商人の華やかな生活を、当時のままの姿で残された建物と品々によって感じられます。倉敷のくらしの文化を伝え、後世に受け継ぎます。



関連パタン：

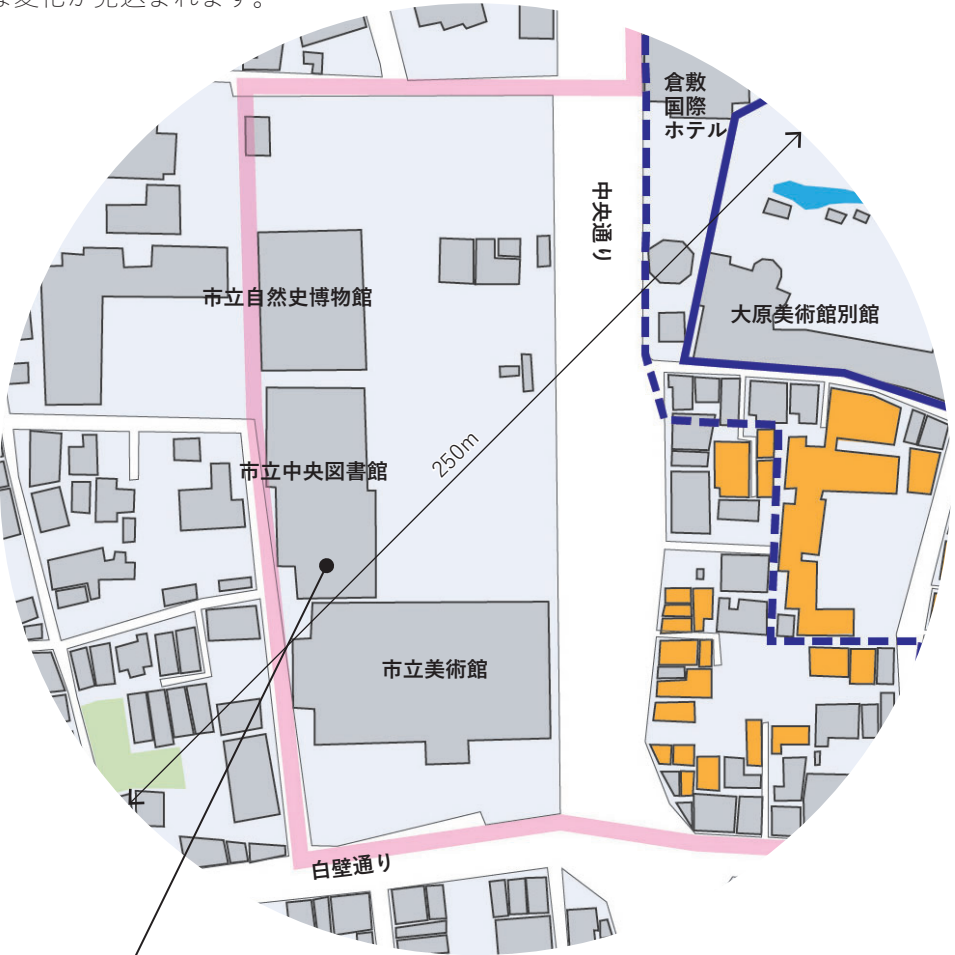
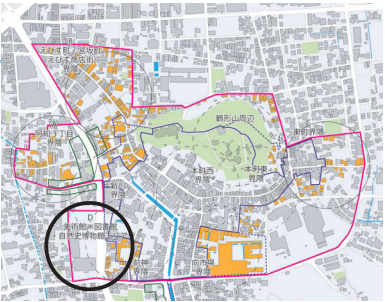
独自の文化や
習慣をきちんと
知ることができる

"本物"や
"実物"に
触れられる

くらしの
文化を伝える

D 美術館・図書館・自然史博物館エリア

もともと倉敷西小学校があったこの場所に 1960 年に倉敷市庁舎が建設され、1983 年に市庁舎の建物を転用・増築して市立美術館・市立中央図書館・自然史博物館が開館しました。長く市民が親しんできた文化ゾーンであるとともに、市営駐車場と大型バス駐車場を多くの観光客が利用しています。図書館と自然史博物館は数年後に移転が予定され、これから大きな変化が見込まれます。



図書館・自然史博物館跡地活用の検討

既存の中央図書館・自然史博物館の移転が決定していますが、跡地の活用については検討はこれからです。現市立美術館（旧倉敷市庁舎）の設計者である丹下健三は、設計した当初、建物前面がまちの顔となる広場を構想していました。浦辺鎮太郎による設計である中央図書館・自然史博物館の建物もその価値についてあらためて皆で考えてみることも必要ではないでしょうか。皆が参加して、皆で考える、あたらしい場づくりが求められています。

関連パタン：

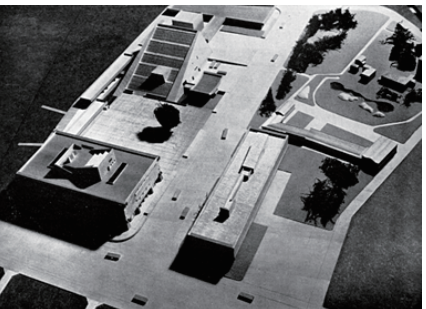
来訪者と
市民が
出会う広場

自由に使える
広場のような
公共空間

みんなで
"つくる"
施設



美術館・図書館・
自然史博物館



倉敷市庁舎・市
民広場・公会堂
総合計画
出典：丹下健三
研究室「倉敷市
庁舎・市民広場・
公会堂総合計
画」、『建築文化
1960 年 9 月号』
彰国社、1960、
p.38

2つの目標年次に向けた取組をロードマップに示します。

(1) 短期：2030 年

SDGs の目標年次と同じ 2030 年に向けては、国際社会が共に進めている取組を意識しながら事業を推進することとし、プロジェクトマップに記載しているプロジェクトに着手し、軌道に乗せ、継続していきます。

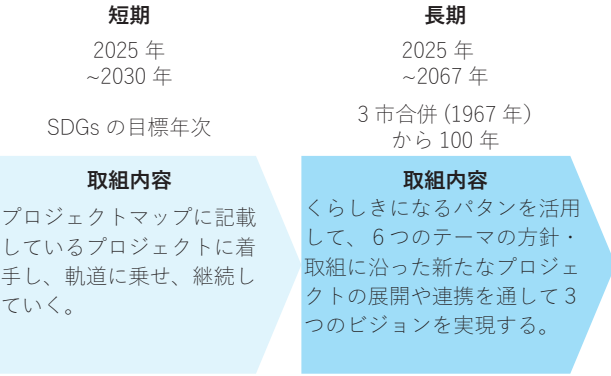
(2) 長期：2067 年

倉敷・児島・玉島の3市合併から100年後となる2067年に向けては、くらしきになるパタンの考えを対象エリアに浸透させ、6つのテーマの方針・取組に沿った新たなプロジェクトの展開やプロジェクト同士の連携を通して、ビジョンの実現を目指します。

推進体制

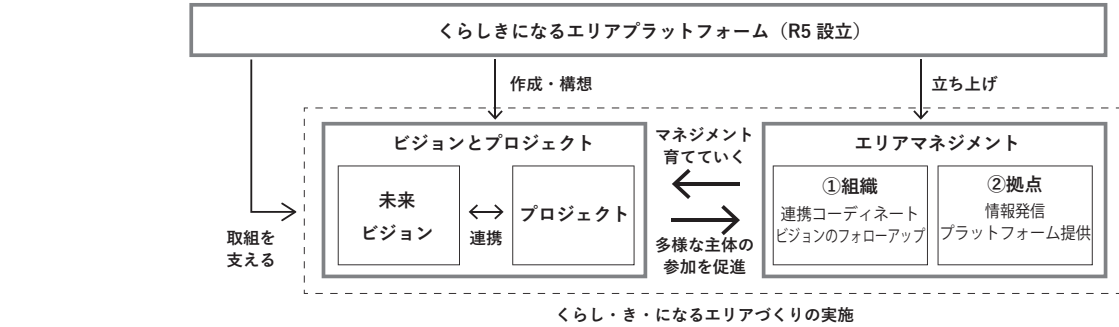
(1) エリアマネジメント組織への展開

未来ビジョンを推進するため、くらしきになるエリアプラットフォームを基盤に「公」・「民」・「学」が主体となるエリアマネジメント組織へのブラッシュアップを検討します。検討にあたっては、公共（公）・民間（民）・大学（学）が協働したまちづくりを進める先進事例・アーバンデザインセンター（UDC）の理念を参考にします。地域社会に



【未来ビジョンの目標年次】

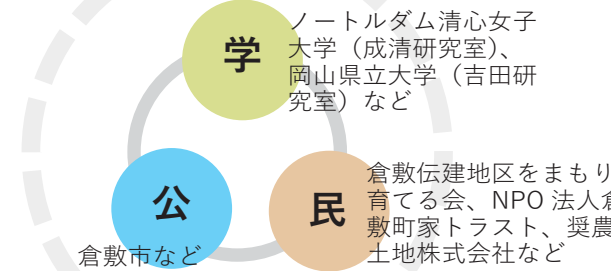
必要な公的サービスを担う「公共」、市民活動や経済活動を通じて地域の魅力と活力の向上を担う「民間」、専門知識や技術を基に先進的な活動を担う「大学」が日常的・多面的に連携し、実践していくエンジンとなります。各組織それぞれが、空間（施設運営費）、人（人件費）、金（活動資金）を負担し、組織運営を行っていきます。



①組織

未来ビジョンの推進に関連する構成団体、連携・協力団体による組織化を図ります。まずは任意団体とし、将来的には法人化も検討します。

〔構成団体〕組織運営の中心となる団体



〔連携・協力団体〕小学校、中学校、高等学校など連携・協力する団体や教育機関等。活動をつなぎ、個別のプログラムを実施していきます。

②拠点

未来ビジョンを地域の関係者に対して発信し、推進するエンジンとなる現地拠点をづくりします。

- 〔拠点の機能イメージ〕
- ・未来ビジョンおよび進捗に関する情報発信機能
 - ・誰でも参加できる場の提供・プラットフォーム機能
 - ・常駐する専門スタッフによる、運営のコーディネート機能

(2) エリアマネジメント組織の4つの役割 (案)

①未来ビジョンに基づくプロジェクト等の支援	②情報発信
③まちづくりに関わりたい人や組織をつなげ、まちづくりの輪を広げる	④若い世代のまちづくりへの参画を促進

有志でエリアプラットフォームの必要性を議論し、国交省まちなか再生推進事業への応募準備を始めたのは2021年初夏のことです。それから4年近く経ちました。これまでの様々な場面を思い起こすと、地域内外の多くの方々の賛同と協力がありました。新溪園や倉敷公民館、大橋家、井上家、大原家などの様々な倉敷らしい場所に多くの方々と集まって議論し、学び合い、交流させて頂いた記憶がよみがえります。高校生や大学生の参加もあり、大人顔負けに発言する姿も度々でした。これまでの倉敷には無かったと思われる、誰でも参加できるまちづくりの場であったと感じています。2024年8月20日に開催された「エリアプラットフォーム実務者交流会」（主催：一般社団法人エリアマネジメントラボ、於：City Lab Tokyo）で、パネリストを務めた山口大学の宋俊煥教授はエリ

アプラットフォームの役割について次のように整理しました。①地域の方向性を共有・提示・話し合う場、②情報発信・プロモーションなど、地域を知らせる場、③世代交代・新世代へのまちの更新・転換の場。このような特徴は私たちのくらしきになるエリアプラットフォームにも当てはまるものでした。

この4年間には、歴史を学び、過去を振り返り、国内外の有識者からの学びも得ながら現状に目を向けました。この未来ビジョン2025年3月バージョンを共有しつつ、引き続き「くらしきになるミーティング」を重ねながら一步一步、2067年の未来に向けて共に実践を重ねていきましょう！

くらしきになるエリアプラットフォーム
委員 成清仁士



大橋家住宅でのユースセッション